

2021年3月期 決算補足資料

株式会社ハマキョウレックス

東京証券取引所市場第一部：9037



- I. 2021年3月期 決算概況
- II. 2022年3月期 計画
- III. 2021年3月期 決算実績
- IV. 近物レックスの現況と今後の戦略
- V. 参考情報

I . 2021年3月期決算概況

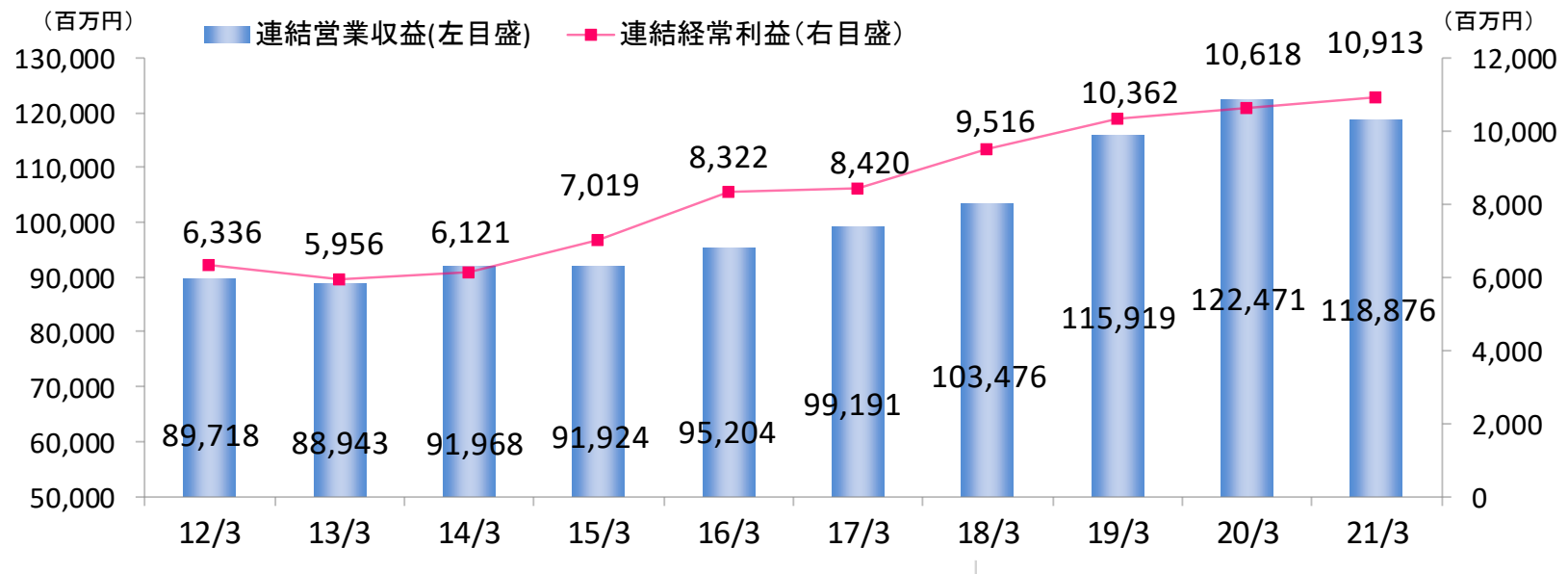
I-1. 2021年3月期の業績

営業収益は、1,188億 76百万円 (前年同期比 $\Delta 2.9\%$)

経常利益は、109億 13百万円 (前年同期比 $+2.8\%$) の減収増益

項目	対前期比	対計画比 ※1	対前期比増減要因
営業収益 118,876百万円	$\Delta 3,594$ 百万円 ($\Delta 2.9\%$)	$\Delta 2,123$ 百万円 ($\Delta 1.8\%$)	・物流センター事業: 新規荷主獲得及び新規子会社取得 ・貨物自動車運送事業: 運賃単価是正、物量減
営業利益 10,563百万円	$+372$ 百万円 ($+3.7\%$)	$+563$ 百万円 ($+5.6\%$)	・物流センター事業: 新規荷主獲得、新規子会社取得、生産性向上 ・貨物自動車運送事業: 運賃単価是正、積載率向上、物量減
経常利益 10,913百万円	$+295$ 百万円 ($+2.8\%$)	$+613$ 百万円 ($+6.0\%$)	・支払利息減少 ・助成金の減少
親会社株主に帰属 する当期純利益 6,427百万円	$+193$ 百万円 ($+3.1\%$)	$+427$ 百万円 ($+7.1\%$)	

I-2. 業績推移



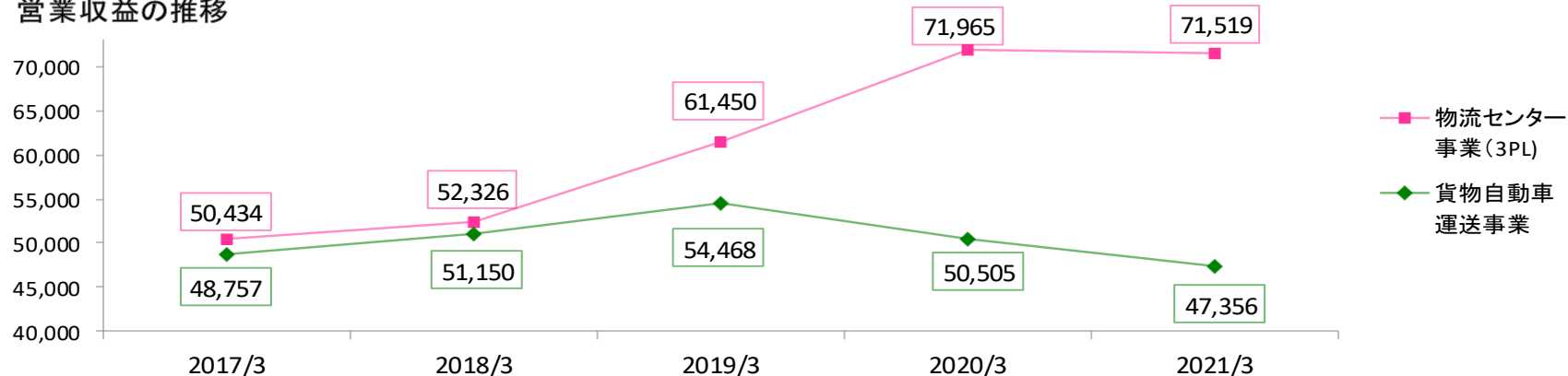
	連結業績
営業収益	減 収
営業利益	増 益 (過去最高)
経常利益	増 益 (過去最高)
親会社株主に帰属する当期純利益	増 益 (過去最高)

I-3. セグメント情報の推移

(百万円)

		2017/3 (構成比:%)	2018/3 (構成比:%)	2019/3 (構成比:%)	2020/3 (構成比:%)	2021/3 (構成比:%)	増減 (増減率:%)
物流センター 事業(3PL)	営業収益	50,434 (+50.8%)	52,326 (+50.6%)	61,450 (+53.0%)	71,965 (+58.8%)	71,519 (+60.2%)	△445 (△0.6%)
	営業利益	5,114	6,007	6,576	7,732	8,243	+510
貨物自動車 運送事業	営業収益	48,757 (+49.2%)	51,150 (+49.4%)	54,468 (+47.0%)	50,505 (+41.2%)	47,356 (+39.8%)	△3,148 (△6.2%)
	営業利益	2,828	3,015	3,328	2,450	2,314	△135

営業収益の推移

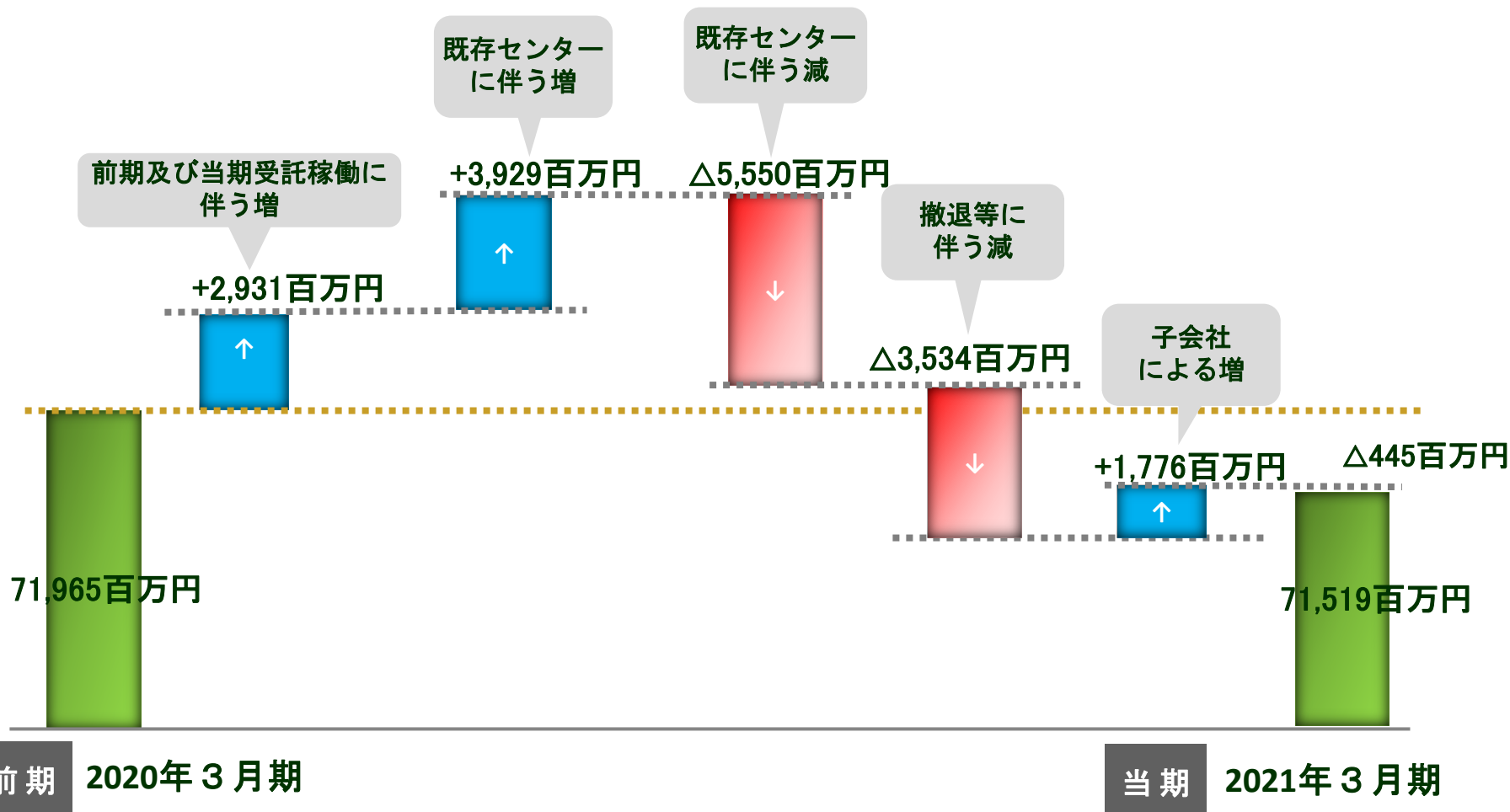


※2020年4月1日付で、当社の連結子会社である㈱ロジ・レックスが、同じく当社の連結子会社であった㈱ジェビーエスを吸収合併したことにより、事業セグメントの変更を行っております。なお、比較のため、前連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成しております。

I-4. 物流センター事業(3PL)の概況

営業収益の状況

※2020年4月1日付で、当社の連結子会社である㈱ロジ・レックスが、同じく当社の連結子会社であった㈱ジェイビーエスを吸収合併したことにより、事業セグメントの変更を行っております。なお、比較のため、前連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成しております。



I-5. 物流センター事業の稼働状況

●新規受託及び稼働

取扱品目	前期受託 未稼働	当期 受託	稼働	当期 未稼働	memo
食品		0社	0社	-	
繊維・アパレル		6社	6社	-	
医薬・医療	1社	3社	4社	-	
雑貨		6社	6社	-	
その他		1社	1社	-	
計	1社	16社	17社	-	



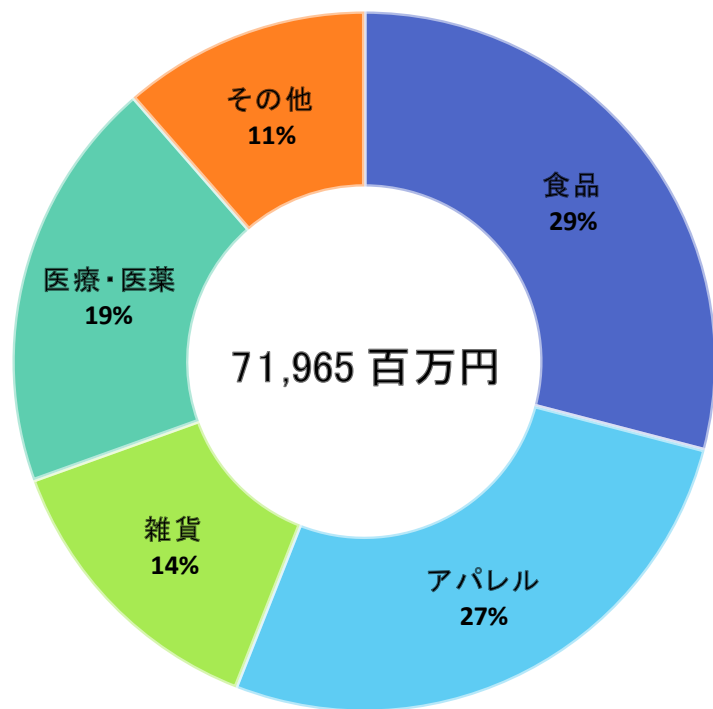
●物流センター数

2021年3月31日現在

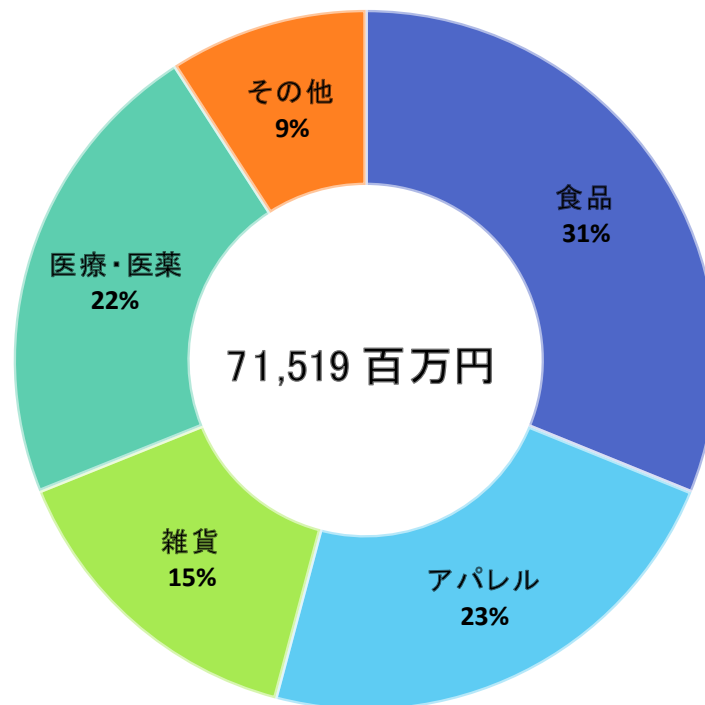
自社センター	43	(463,067m ²)
借用センター	85	(756,736m ²)
計	128	(1,219,803m ²)

I-6. 物流センター事業の取扱品目別売上高

2020年3月期



2021年3月期

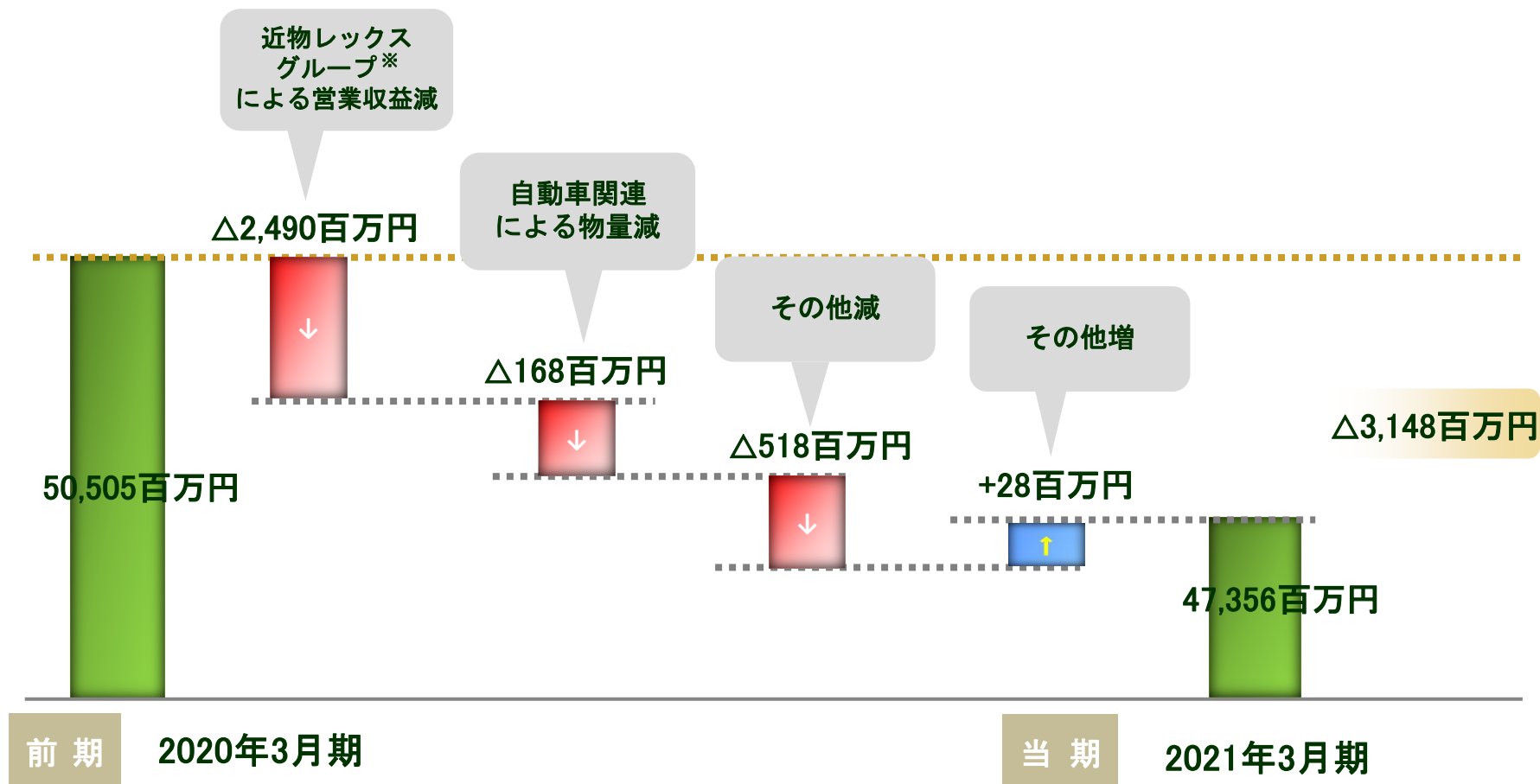


※2020年4月1日付で、当社の連結子会社である㈱ロジ・レックスが、同じく当社の連結子会社であった㈱ジェイビーエスを吸収合併したことにより、事業セグメントの変更を行っております。なお、比較のため、前連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成しております。

I-7. 貨物自動車運送事業の概況

営業収益の状況

※2020年4月1日付で、当社の連結子会社である㈱ロジ・レックスが、同じく当社の連結子会社であった㈱ジェイビーエスを吸収合併したことにより、事業セグメントの変更を行っております。なお、比較のため、前連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成しております。



※近物レックスグループとは、近物レックス㈱とその子会社5社です。

(都運輸㈱、三重近物通運㈱、茨城県貨物自動車運送㈱、㈱エービーエクスプレス、近物ロケーションサービス㈱)

Ⅱ. 2022年3月期計画

Ⅱ-1. 2022年3月期 業績予想

(百万円)

	連結業績	
	計画	前期比 (増加率)
営業収益	125,000	+6,123 (+5.2%)
営業利益	11,000	+436 (+4.1%)
経常利益	11,500	+586 (+5.4%)
親会社株主に帰属 する当期純利益	6,750	+322 (+5.0%)
設備計画	9,000	***

(百万円)

セグメント別業績予想

		計画	前期比	(増加率)
物流センター事業	営業収益	76,400	+4,880	(+6.8%)
	営業利益	8,600	+356	(+4.3%)
貨物自動車 運送事業	営業収益	48,600	+1,243	(+2.6%)
	営業利益	2,400	+85	(+3.7%)

Ⅱ-2 . 経営指標

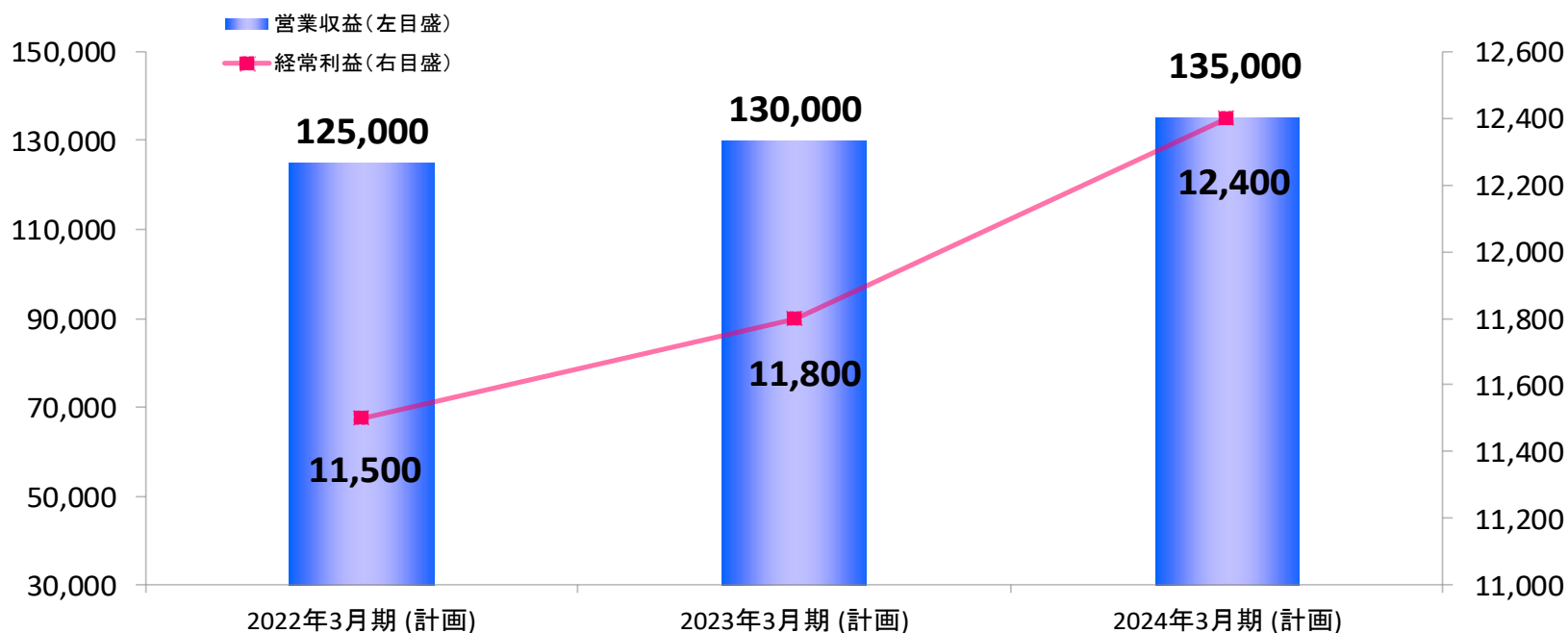
	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	2022/3予想
1株当たり当期純利益(円) 〔EPS〕	293.35	310.71	328.01	341.69	358.84
自己資本当期純利益率(%) 〔ROE〕	11.3	10.9	10.6	10.1	9.8
営業収益営業利益率(%)	8.7	8.6	8.3	8.9	8.8
1株当たり配当金(円)	45.00	65.00	70.00	75.00	80.00

※自己資本当期純利益率(ROE)は、10%以上を継続的に達成することを目指してまいります。

Ⅱ-3. 中期経営計画

(百万円)

	2022年3月期 (計画)	2023年3月期 (計画)	2024年3月期 (計画)
	連結	連結	連結
営業収益	125,000	130,000	135,000
経常利益	11,500	11,800	12,400
親会社株主に帰属する 当期純利益	6,750	6,900	7,200
1株当たり当期純利益	358.84	366.81	382.76
営業収益経常利益率	9.2%	9.1%	9.2%
設備投資計画	90億円	90億円	90億円



Ⅱ-4. 今後の取り組み①

1. 3PL事業を軸とする事業展開

①DX推進部を新設し、物流センターの省人化

- ・ 関東の物流センターにて、物流ロボット導入により入出荷作業の一部省人化を実現
- ・ カメラ認証技術及び自動搬送ロボットの活用により更なる省人化を目指す

②EC物流の拡大（ラストワンマイル）と自社配送の取組み

事業展開しているEC物流センターのノウハウを活かし、成長見込まれるEC物流の受託拡大（ラストワンマイル）と自社配送を推進する

③事業採算・リスクを勘案し、積極的な設備投資を行う

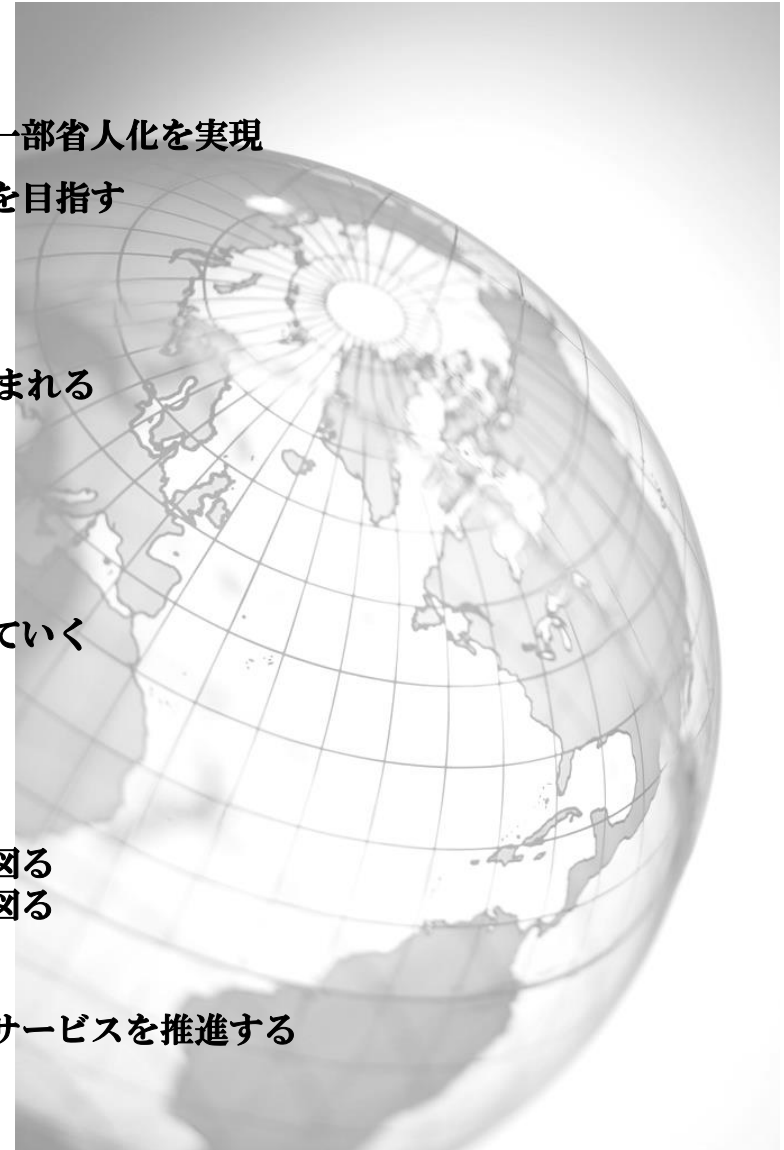
- ・ 既存の物流センターにおいても省人化設備の導入を積極的に行っていく
- ・ 物流センターの自社倉庫建設を積極的に行っていく

2. 3PL事業とグループ会社の融合

- ①近物レックスのターミナルを物流センター化し、シナジー強化を図る
- ②近物レックスの拠点網が充実しているエリアでのシナジー強化を図る

3. 運送事業の取組み

- ①近物レックスのターミナルを利用し、軽貨物車両を利用した宅配サービスを推進する
- ②労働環境の改善のため運賃是正の推進



Ⅱ-5. 今後の取り組み②

4. 新規顧客獲得に向けた取り組み

- ①既存の組織・職務・各関連会社にとらわれず、グループ全体での新規顧客獲得に向けた営業を行う
- ②物流センター事業での年間受託件数15社を目指す

5. 海外戦略への取り組み

- ①国内の顧客満足度を向上させるため、ニーズに応じた海外展開を図る
- ②インド国内の完成車輸送の拡大とコールドチェーン物流の開発促進する

6. ESGへの取り組み

- ①物流センター事業 太陽光発電システム導入によるCO₂削減
入荷車両管理システムの導入による車両の待機時間削減
- ②貨物自動車運送事業 CO₂排出量の少ない車両の導入
- ③共通 積載率のUP及び共配による車両効率の向上
倉庫施設への環境負荷低減部材の導入
(リサイクルパレット、ホームプロテクター等)



Ⅲ. 2021年3月期 決算実績

Ⅲ-1. 四半期会計期間別(3ヶ月)の業績推移

(百万円)

	第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
営業収益	28,637	△1,055 (△3.6%)	29,038	△1,583 (△5.2%)	31,758	△717 (△2.2%)	29,441	△238 (△0.8%)
営業利益	2,367	△124 (△5.0%)	2,526	△57 (△2.2%)	3,326	+317 (+10.6%)	2,342	+236 (+11.2%)
経常利益	2,490	△154 (△5.8%)	2,620	△63 (△2.4%)	3,405	+334 (+10.9%)	2,396	+177 (+8.0%)
親会社株主に 帰属する 当期純利益	1,538	+10 (+0.7%)	1,615	+70 (+4.6%)	1,979	+219 (+12.5%)	1,294	△107 (△7.6%)

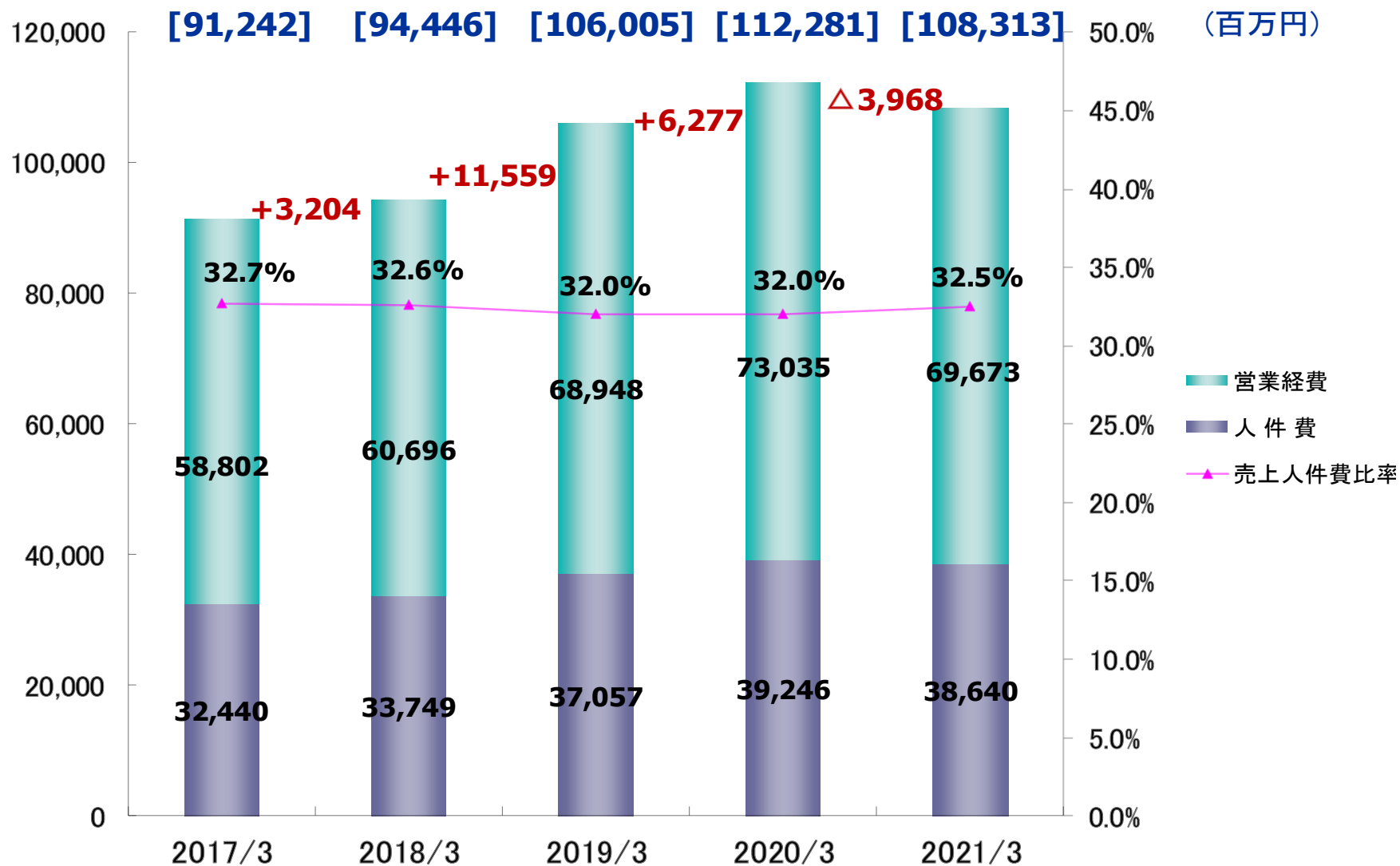
Ⅲ-2. セグメント別四半期会計期間(3ヶ月)の業績推移

(百万円)

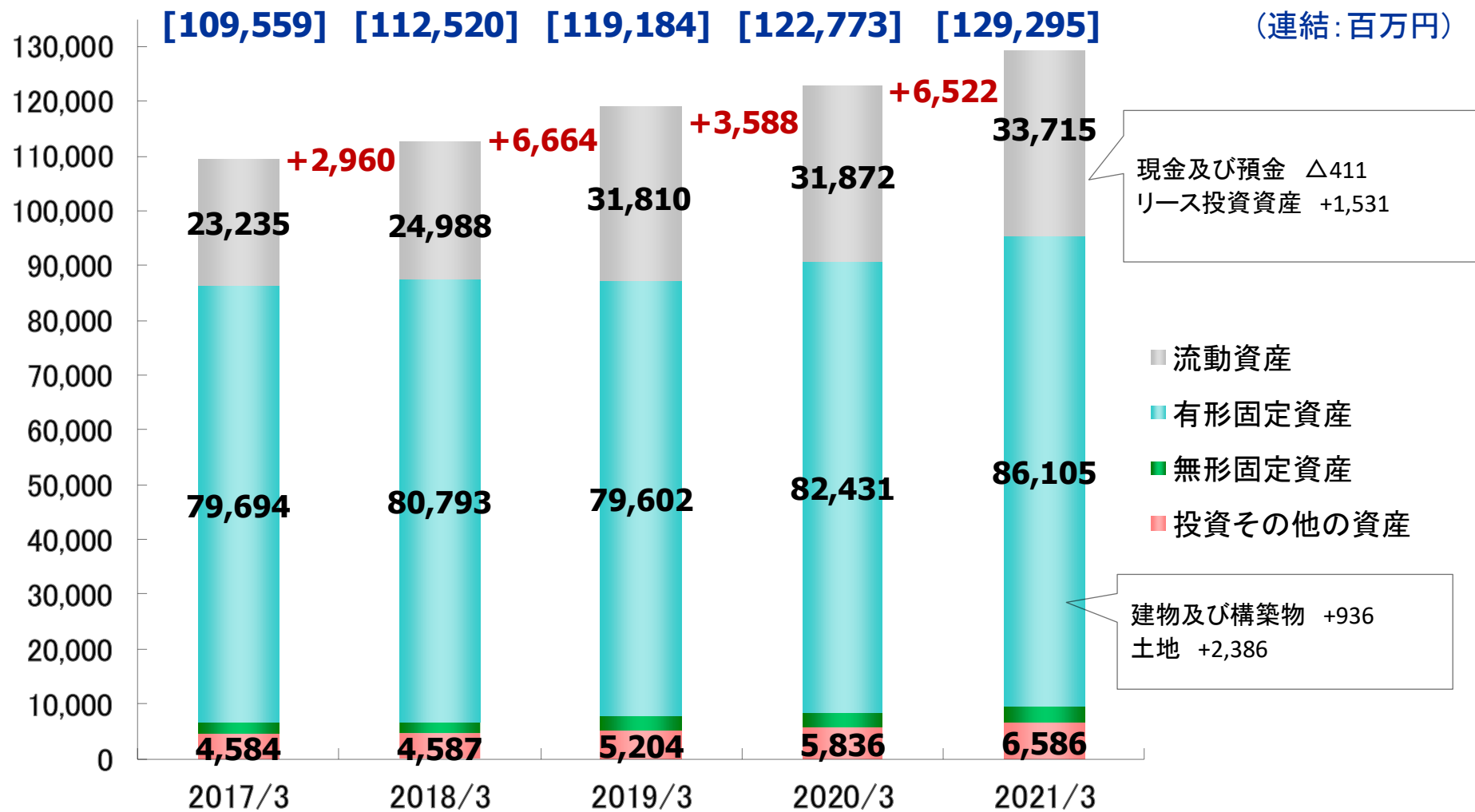
		第1四半期		第2四半期		第3四半期		第4四半期	
		当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)	当期実績	前期比 (増減率)
物流センター	営業収益	17,056	△89 (△0.5%)	17,540	△294 (△1.6%)	19,320	△229 (△1.1%)	17,601	+166 (+0.9%)
	営業利益	1,991	+97 (+5.1%)	1,963	+50 (+2.6%)	2,467	+161 (+6.9%)	1,820	+200 (+12.3%)
貨物自動車運送	営業収益	11,580	△966 (△7.7%)	11,498	△1,289 (△10.0%)	12,437	△488 (△3.7%)	11,839	△404 (△3.3%)
	営業利益	374	△221 (△37.1%)	562	△107 (△16.0%)	857	+157 (+22.4%)	520	+36 (+7.4%)

※2020年4月1日付で、当社の連結子会社である㈱ロジ・レックスが、同じく当社の連結子会社であった㈱ジェイビーエスを吸収合併したことにより、事業セグメントの変更を行っております。なお、比較のため、前連結累計期間のセグメント情報は、変更後の区分に基づき作成しております。

Ⅲ-3. 経費・人件費



Ⅲ-4. 貸借対照表＜資産＞

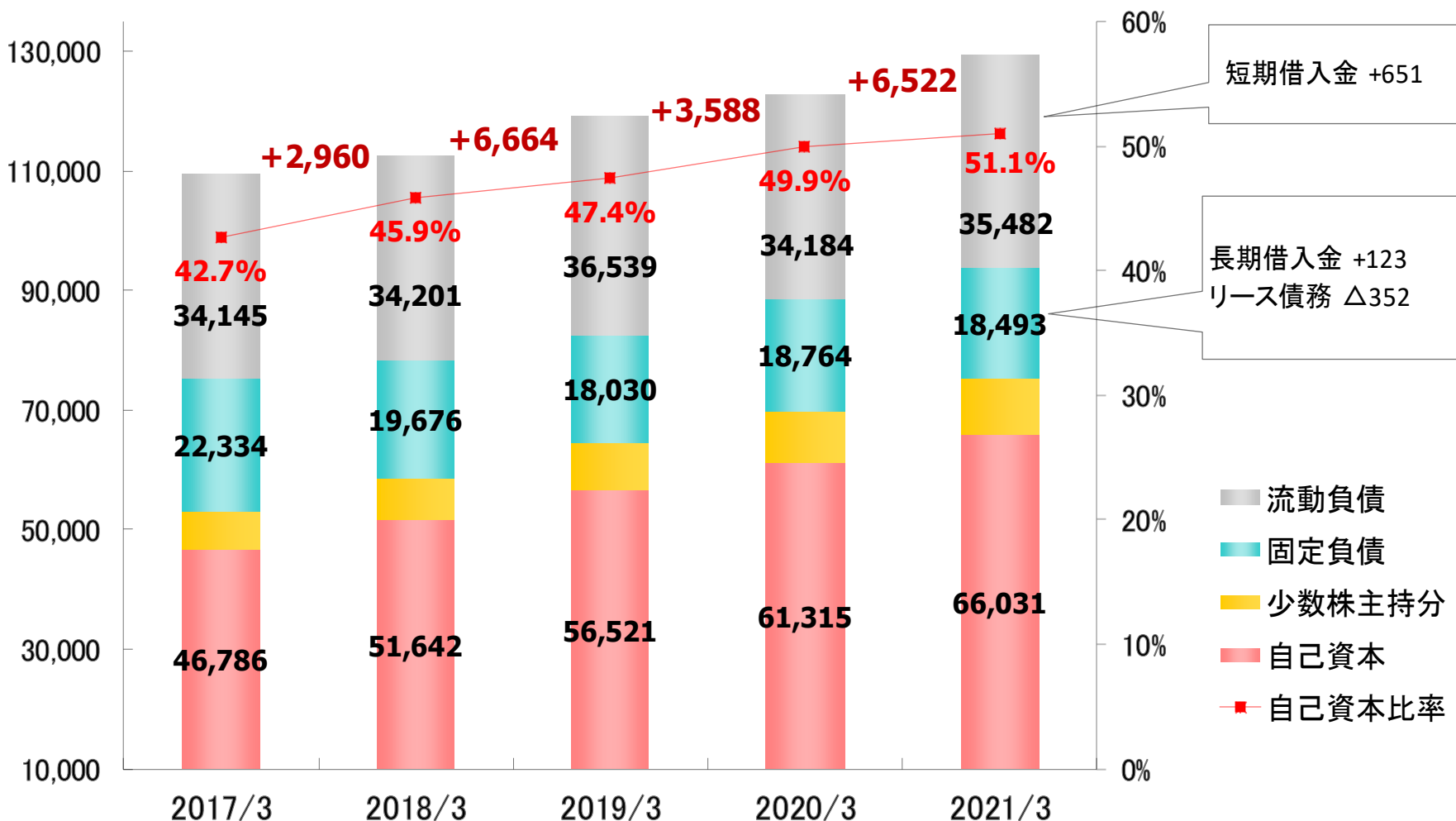


『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を
2018年度の期首から適用しており、当該会計基準をさかのぼって適用した後の指標等となっております。

Ⅲ-5. 貸借対照表＜負債・純資産＞

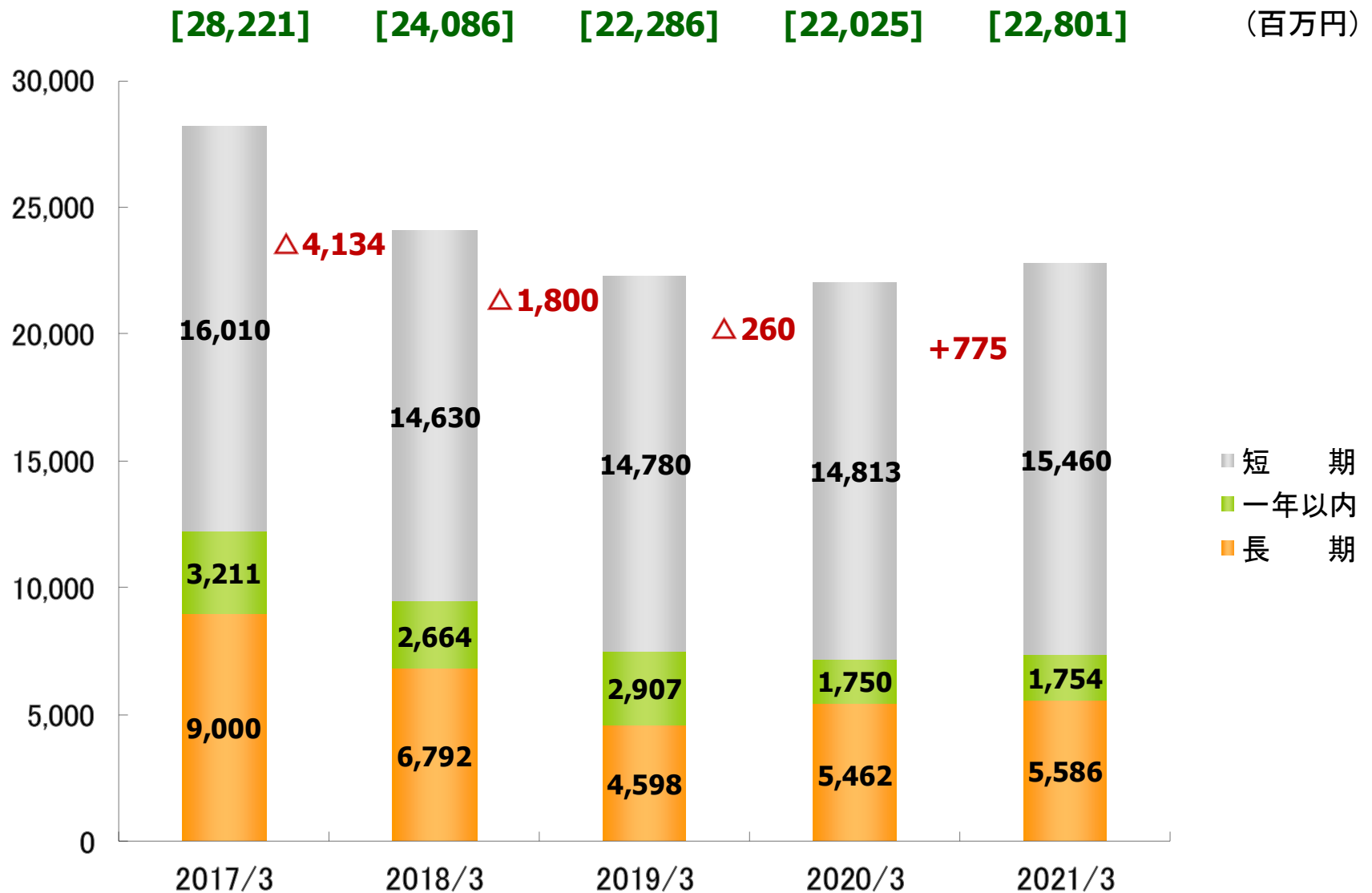
[109,559] [112,520] [119,184] [122,773] [129,295]

(百万円)

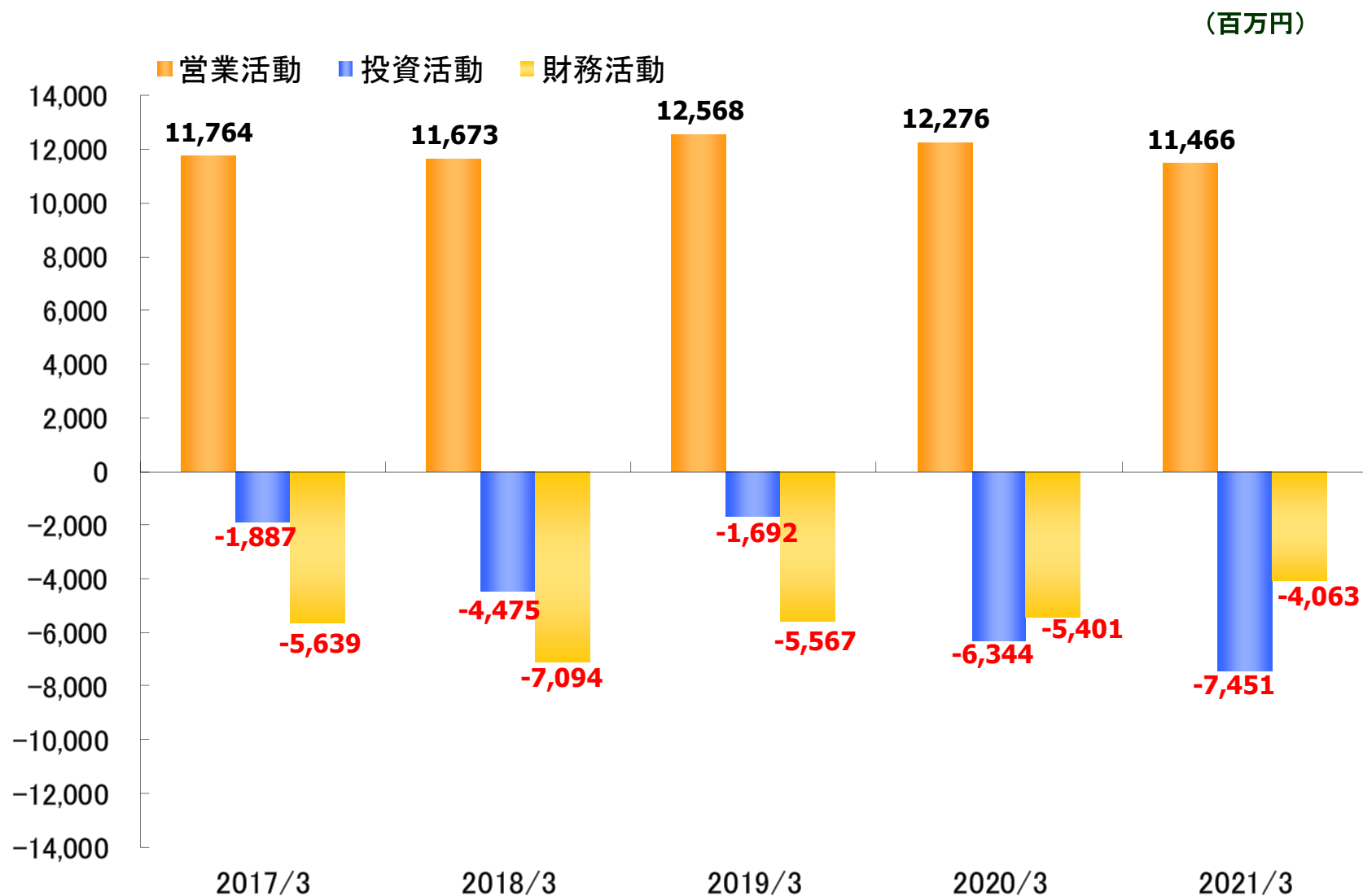


『税効果会計に係る会計基準』の一部改正(企業会計基準第28号 2018年2月16日)を
2018年度の期首から適用しており、当該会計基準をさかのぼって適用した後の指標等となっております。

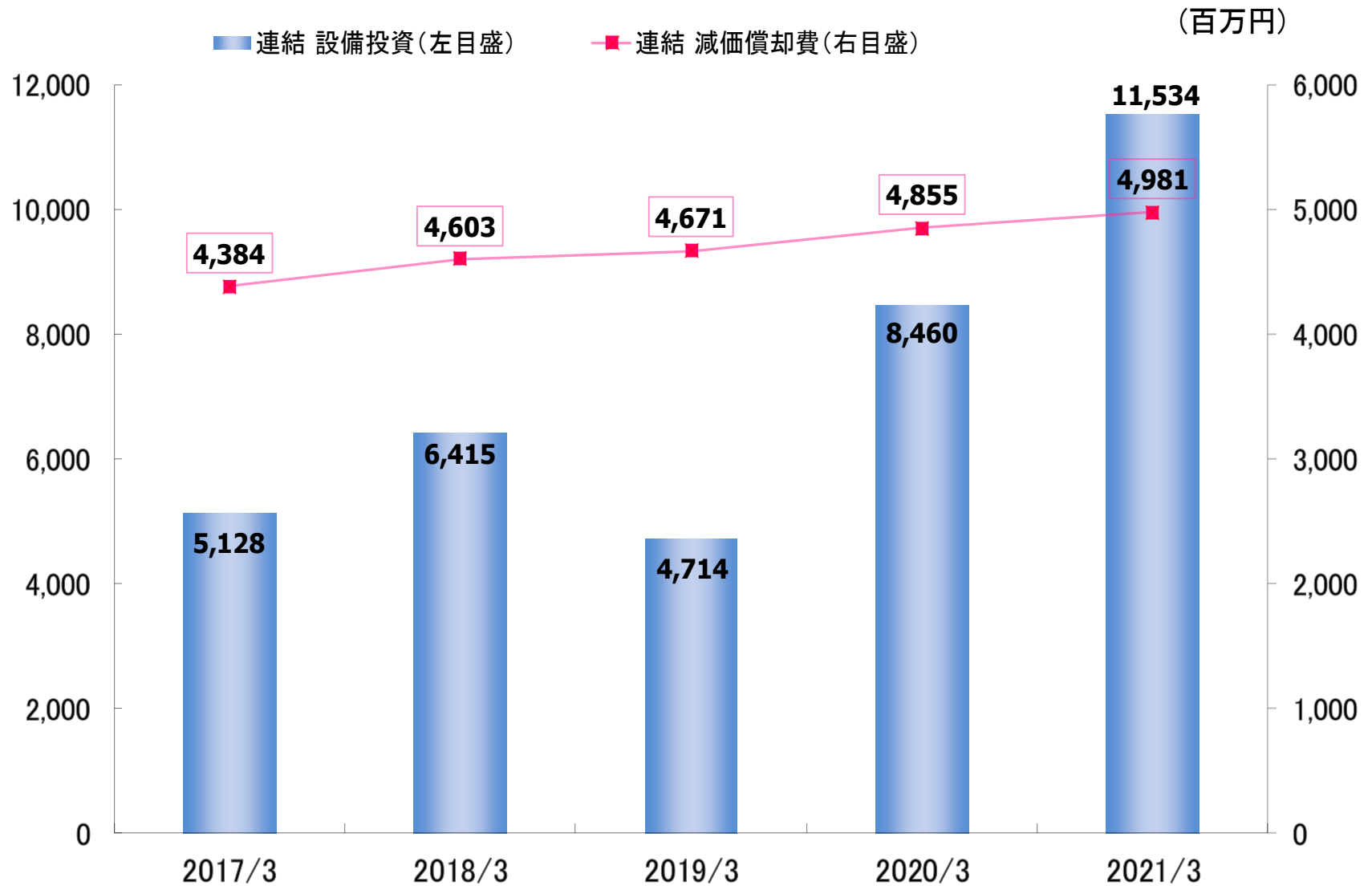
Ⅲ-6. 有利子負債（借入金）



Ⅲ-7. キャッシュ・フロー



Ⅲ-8. 設備投資・減価償却費



IV. 近物レックスの現況と 今後の戦略

IV-1. 近物レックス 2021年3月期業績

(百万円)

	実 績			計 画	
	2020/3	2021/3	前期比 (増減率)	2021/3	計画比 (増減率)
営業収益	38,494	36,377	-2,116 (-5.5%)	40,245	-3,867 (-9.6%)
営業利益	1,322	1,282	-39 (-3.0%)	2,028	-745 (-36.7%)
経常利益	1,365	1,300	-65 (-4.8%)	2,000	-699 (-34.9%)

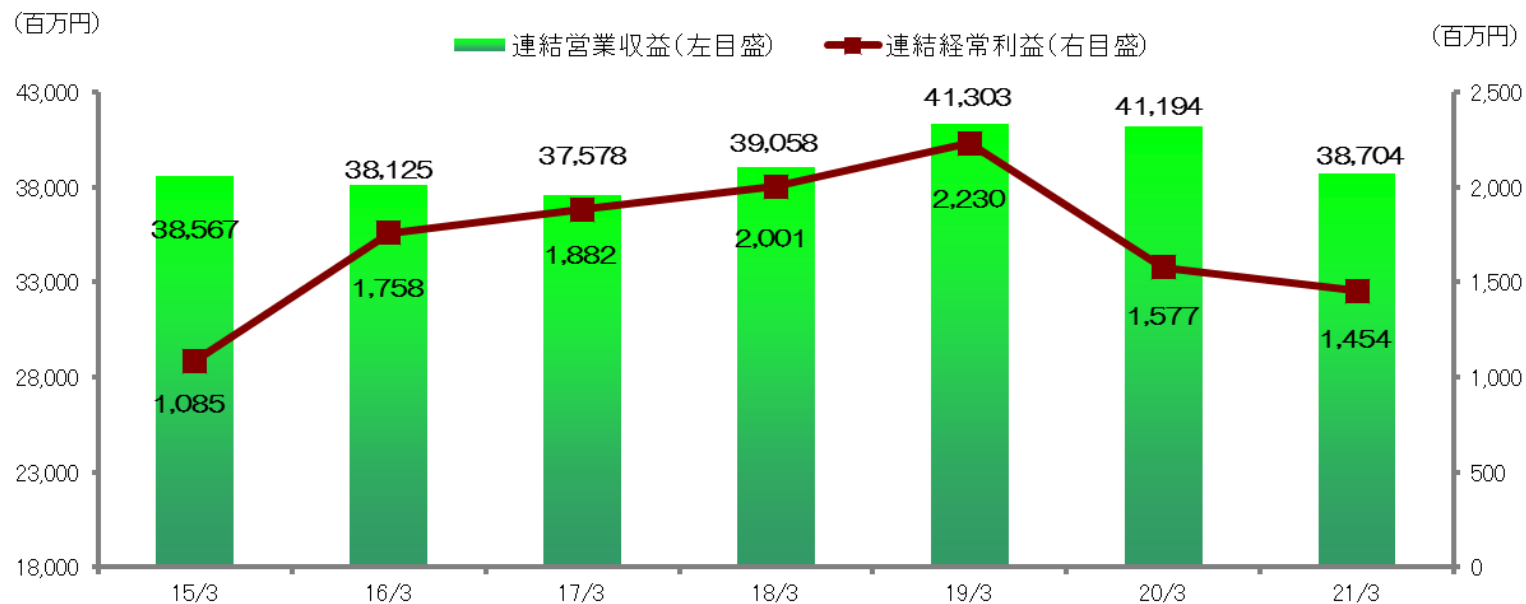
IV-2. 近物レックス 業績推移

(百万円)

	近物レックスグループ(連結子会社含む)						近物レックス単体	
	2017/3	2018/3	2019/3	2020/3	2021/3	増減額 (率)	2021/3	増減額 (率)
営業収益	37,578	39,058	41,303	41,194	38,704	-2,490 (-6.0%)	36,377	-2,116 (-5.5%)
営業利益	1,869	1,974	2,189	1,513	1,436	-76 (-5.0%)	1,282	-39 (-3.0%)
経常利益	1,882	2,001	2,230	1,577	1,454	-123 (-7.8%)	1,300	-65 (-4.8%)
当期純利益	1,247	1,413	1,476	1,164	954	-209 (-18.0%)	872	-171 (-16.4%)

※近物レックスグループ: 近物レックスの直接子会社を含めた連結数値となります。

IV-3. 近物レックス収益構造



	連結業績	個別業績
営業収益	減収	減収
営業利益	減益	減益
経常利益	減益	減益
当期純利益	減益	減益

IV-4. 近物レックスの2020年度成果

1. 収益性の向上

- ・ 運賃値上げ
- ・ 輸送の効率化

2. 輸送の安全

- ・ 3大事故の撲滅（車輛・労災・商品）
- ・ 法令遵守

3. 雇用推進

- ・ 採用の多角化（静岡採用・媒体選択・HP・紹介制度・動画作成）
- ・ 各種合同面接会への参加

4. 設備投資・その他

- ・ 設備投資（車輛・店舗建替・新店舗用地）
- ・ 社内システムの更新
- ・ 借入返済
- ・ 新型コロナウイルス対策



IV-5. 近物レックスの2021年度取組み

1.収益性の向上

- ・売上確保
- ・新たな輸送手段の構築
- ・内製化（効率化）

2.輸送の安全

- ・3大事故の撲滅（車両・商品・労災）
- ・法令遵守

3.雇用確保

- ・採用の強化（媒体選択・HP・紹介制度・動画作成・新卒採用）
- ・軽貨物ドライバーの採用
- ・完全週休2日に向けた取組み

4.設備投資

- ・設備投資（車両・店舗建替）
- ・社内システムの更新
- ・借入返済



V. 参考情報



「物」に携わる者として、

「人と接するときは、**心**を込めて」

「仕事をするときは、**初心**を忘れず前向きに」

「物を扱うときは、**心**を込めて丁寧に」

「物を運ぶときは、**心**を込めて安全に」

「如何なるときにも感謝の**心**を大切に」

を基本テーマに取り組んでおります。

V-2. 経営方針

物流の役割は駅伝でいえば最終ランナー、
地味ではあるが信頼された重要な存在。

当企業グループは信頼に応えて効率的な事業活動の展開と継続的で質の高い成長を図り、お客様第一、品質第一を基本に、企業としての社会的責任を果たしてまいります。

また、短期的な収益にとらわれず、長期的な視点に立った経営を行い、3PL物流における質的内容の日本一を目指します。



会社概要（2021年3月31日現在）

● 社 名	株式会社ハマキョウレックス (HAMAKYOREX CO., LTD.)
● 設 立	1971年2月
● 資 本 金	65億47百万円
● 決 算 期	3月31日
● 従 業 員 数	連結 5,080名
● 発 行 済 株 式 数	19,012,000株
● 株 主 数	3,750名
● 事 業 内 容	物流センター事業（3PL）、貨物自動車運送事業
● 連 結 子 会 社	22社
● 売 上 高	連結 1,188億76百万円
● 経 常 利 益	連結 109億13百万円

V-4. 事業紹介

当社グループは、
物流センター事業と貨物自動車運送事業を中心に
展開しております。



V-5. M&Aの取得状況

2021年2月18日、栄進急送株式会社及びマルコ物流有限会社(本社:兵庫県伊丹市)が、ハマキョウレックスグループに新たに加わりました。



社 名	栄進急送株式会社	マルコ物流有限会社
本社所在地	兵庫県伊丹市西野 1 丁目 8 番地	兵庫県伊丹市西野 1 丁目 8 番地
代 表 者	代表取締役社長 村上 俊一郎	代表取締役社長 村上 俊一郎
設 立	1986 年10 月	1999 年12 月
資 本 金	24 百万円	3 百万円
事 業 内 容	物流センター事業 貨物自動車運送事業	物流センター事業
従 業 員	106名 (2021年 3 月31日現在)	21名 (2020年 3 月31日現在)
売 上 高	521百万円 (2021年 1 月 1 日～年 3 月31日)	161百万円 (2021年 1 月 1 日～年 3 月31日)

V-6. 物流センター事業

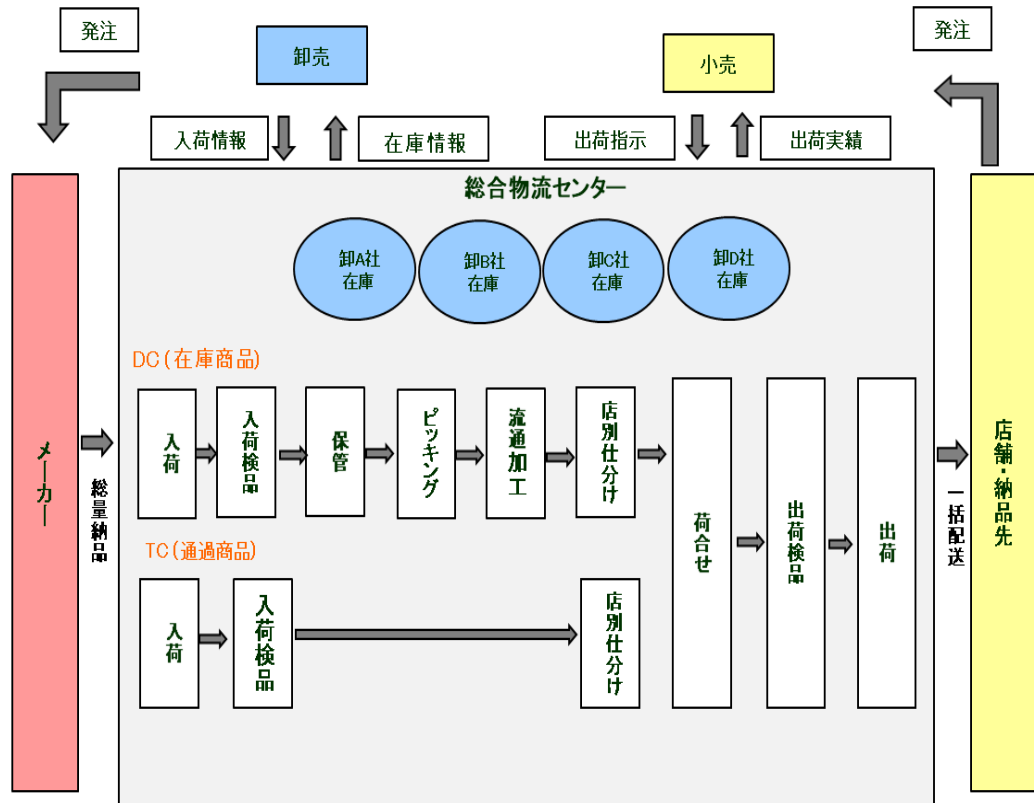
当社は3PL(3rd Party Logistics)をおこなっております。

3PLとは、『荷主様に対して物流改革を提案し包括して物流業務を受託すること』であり、一般的には、『荷主様が物流業務を外部委託(アウトソーシング)すること』を指します。

3PLの主な目的は、「物流コスト削減」「戦略的ロジスティクスの構築による利益追求」です。

お客様にとって最適な物流通をご提案し、「物流を通じてお客様へ利益を還元する」ことが最も重要な役割であると考えております。

物流センター事業例
～在庫保管型センター (DC) の場合～



コスト競争力 現場力

当社は、「**コミュニケーション**」を重要視し、社員・パート・アルバイトを含めた「**全員参加**」による現場主導での自社運営を実施。「**日計収支^{※1}**」・「**生産性向上**」によるコスト削減を荷主様へ提案し、物流費削減を支援いたします。

※1 日計収支とは、各拠点で、日々決算を行い、その日1日の損益を把握する仕組みです。これにより、その日の問題点を翌日の改善につなげ、日々の無駄なコストを削減していくための当社の仕組みであります。

V-8. 拠点紹介



IR関係問合せ先・担当者

● 執行役員 管理部長

山田 力也

● 執行役員 経営企画室長

竹内 義之

TEL 053-444-0054



将来見通し等に関する注意事項

本資料につきましては投資家の皆様への情報提供のみを目的としたものであり、売買の勧誘を目的としたものではありません。

本資料における、将来予想に関する記述につきましては、目標や予測に基づいており、確約や保証を与えるものではありません。また、将来における当社の業績が、現在の当社の将来予想と異なる結果になることがある点を認識された上で、ご利用ください。

また、業界等に関する記述につきましても、信頼できると思われる各種データに基づいて作成されていますが、当社はその正確性、完全性を保証するものではありません。

本資料は、投資家の皆様がいかなる目的にご利用される場合においても、お客様ご自身のご判断と責任においてご利用されることを前提にご提示させていただくものであり、当社はいかなる場合においてもその責任は負いません。